

# 令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣桜高等学校

学校番号 28

## I 自己評価

1 学校教育目標	豊かな人間性を育み、家庭・福祉の専門的知識や技術を生かして、生活産業や地域社会に貢献し、信頼と社会性を身に付けた人材の育成。		
2 スクール・ポリシー	<p>『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)</p> <p>確かな学力の定着と家庭・福祉の専門的知識・技術を身に付けるために、自ら学び自ら考え、主体的に学習に取り組む生徒</p> <p>基本的な生活習慣を確立し、規範意識を身に付けて、正しく判断し、主体的に社会に貢献しようとする生徒</p> <p>望ましい労働観や職業観を養い、職業人として必要な豊かな人間性と能力の伸長に努める生徒</p>	<p>『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)</p> <p>規律ある生活態度を身に付け、自ら判断し行動できる態度の育成</p> <p>基礎的・基本的な学力の向上を図り、家庭・福祉の専門的知識・技術を習得させ、一人一人の進路実現を支援</p> <p>家庭や地域社会と連携・協働し、安全で安心な学校づくりを推進</p>	<p>『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)</p> <p>基本的な生活習慣を身に付け、自ら学習環境を整えて充実した学校生活を送ろうとする生徒</p> <p>家庭・福祉の専門的な学習をとおして、自ら課題を見つけ、解決し、地域社会に貢献しようとする生徒</p> <p>情報モラルや規範意識の向上に努め、防災意識を高め、自分の命は自分で守るという強い意識をもった生徒</p>

## ◇教務部（教育課程・学習指導）

4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育方針・学校経営に関して、生徒・保護者共にA(よくあてはまる)とB(ややあてはまる)の回答の割合が全ての項目で、昨年度より高く、80%以上という評価を得ることができた。</li> <li>・学習指導の項目は、授業以外の体験学習等の機会や「課題研究」(生デ・服デ・食物)「介護総合演習」(福祉)といった専門科目の学習に満足感を得ていることがわかる。保護者からは、わからないという回答が高い。広く地域や保護者にPRする必要がある。</li> </ul>
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 基礎的・基本的な学習内容の定着と、専門的知識・技術の向上を図るため、<u>主体的・対話的な授業をデザインし、「分かる授業」「意欲的に取り組む授業」の実践に努めるよう校内研修・授業改善を行う。</u></li> <li>2 各教科・科目において生徒自身が学習する目的を理解し、自ら課題を見つけ解決しようとする態度を育成するため、<u>指導目標と評価規準を明確にし、効果的なICT活用や教科横断的な指導計画や指導内容、評価方法や教材等の工夫・精選を図る。</u></li> <li>3 教育活動を積極的に保護者や地域へ発信し理解や関心を得る。</li> <li>4 情報セキュリティを確保するため、<u>ICT機器環境整備に努め、情報管理を進める。</u></li> <li>5 学んだ知識・技術を定着させ、学んだ力を社会に生かそうとする力を身に付けさせるため、自らの学び方に興味・関心をもたせるとともに、<u>学習習慣の確立を図る。</u></li> </ol>

6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修の活発化や情報交換（公開授業実施、授業参観事後交流）</li> <li>・教務部を中心に各学科及び各教科、各学年と連携、アンケート調査と対応等の検討</li> <li>・情報部が教務部に1本化された事で、より効果的にICTを活用するための授業実践・校内体制の整備</li> </ul>	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 公開授業週間の積極的な授業参観の実施と研修 (2) 授業の目標を明確にし、効果的にICTを活用し生徒の興味・関心を高め自ら課題を発見し、意欲的に取り組む授業実践 (3) 家庭学習時間調査の実施と分析 朝のSHR時間の学習への取組実施	(1) 公開授業の活性化・授業参観報告、校内研修報告 (2) 授業評価（生徒アンケート）結果 成績不良者の減少 (3) 家庭学習時間調査結果 漢字能力を高める学習や読書習慣の定着	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・公開授業週間において相互に参観し、事後交流会を実施し生徒の学びを深める工夫をする。</li> <li>・授業評価を実施し、集計結果を授業改善に活かす</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題提出の徹底を図る。考査前家庭学習時間調査を実施し、集計分析し学習指導に活かす。</li> </ul>	①授業改善に向けて取り組むことができたか。 ②生徒の実態を把握し、授業目標を明確にし、わかる授業・意欲的に取り組む授業が実践できたか。 ③家庭学習習慣が身に付き、家庭学習時間が増加したか。	A (B) C D A (B) C D A B (C) D
12 成果・課題	○公開授業週間に研究授業日を設定するなど、参観しやすいようにし、授業参観と相互評価を行う取組を継続した。 ○ICT機器の導入に伴って、効果的な活用をしている先生の授業を中心に研修を行うなどしたことで、さらに推進され、「わかりやすい授業」につなげることができた。 ▲考査前家庭学習時間調査を継続している結果、前期中間から期末へは学習時間が多少増加するが後期中間に減少し、現状で満足して意欲的な学習態度への向上が見られない。年々、学習時間が減少していく傾向が見られる。家庭学習の習慣を身に付けさせる指導を充実させる必要がある。	
13 来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力の定着：自ら考え課題を発見し、解決する学習の実践のためには基礎学力が不可欠であることを、繰り返し伝えるとともに、基礎学力の定着に向けて家庭学習の習慣を身に付けるための課題指導の充実。</li> <li>・校内研修の継続：研修主事をおくことで、各教科を超えた研修を充実させることができた。授業やその他学校行事等において、効果的なICT活用についての今後も研修の継続が必要である。</li> </ul>		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年1月17日

【意見・要望・評価等】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「家庭・福祉」の専門科として、桜高校でしか学ぶことができない授業などは他校に負けない強みである。自己評価からも専門性を高める部分について力を入れており、成果が出ている様子が伝わってきます。</li> <li>・生徒主体の取組が活かされている。</li> </ul>
--

### ◇生徒指導（教育相談）

4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モラルやマナー指導については、生徒・保護者とも高評価である。集会や校内放送、クラスへの連絡等が奏功している。</li> <li>・いじめなどの生徒間トラブルへの対応は当事者およびその関係者で完結し、公表しないため、保護者の回答は「わからない」が多い。</li> </ul>
--------------------------------	--

5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己指導能力（TPOをわきまえた行動・言動・身だしなみを自主的に判断し、実行できる力）の育成</li> <li>共感的生徒理解を基盤とし、職員間の情報共有、共通理解、組織対応を徹底する。</li> </ul>		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	生徒指導および教育相談：生徒指導部、各科、各学年会、養護教諭 いじめ防止対策委員会 交通安全指導：交通安全委員会、生徒会、家庭クラブ、MSL 生活安全指導：生活委員会、生徒会、MSL		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 全職員による身だしなみ指導を実施 (2) いじめ・心のアンケートの実施 (3) 交通安全指導 (4) 情報モラル指導 (5) 生徒会との制服・校則に関する意見交換会	(1) 身だしなみ違反での指導数の減少 (2) トラブル件数の減少 (3) 交通事故件数の減少・事故対応力の向上 (4) 情報モラル違反の減少 (5) 規則を守ろうとする生徒の増加		
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月のさくらcheck（身だしなみ指導）の実施</li> <li>教育相談週間、i-check、心のアンケート、いじめに関するアンケートによる問題の早期発見</li> <li>MSLと職員による年5回の交通安全啓発活動</li> <li>自転車安全運転チェックの実施（交通安全委員）</li> </ul>	①身だしなみ指導数の減少 ②アンケートの100%回答 回答者全員への面談 SC希望生徒全員の実施 ③交通事故件数の減少 交通マナーの向上	A (B) C D (A) B C D A (B) C D	
12 成果・課題	○「心のアンケート」「いじめに関するアンケート」により、見えない部分の生徒の悩みを拾い上げることができている。 △問題行動の発生件数は減少しているが、小規模の人間関係トラブルは依然として多く発生している。教員がどこまで介入すべきなのか、匙加減に苦慮。 ▲いじめではないが、何となく人間関係に疲れて教室に行きたくないという生徒に対し、組織でサポートするような体制が作れなかった。 ▲交通ルールを守れない生徒が多く事故も多い。ヘルメット推奨を含め、継続して交通安全の啓発を行う。毎年実施の交通安全講話も工夫や改善が必要。		総合評価 A (B) C D
13 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育相談的な事案が今後も増えることが予想されるため、教育相談の組織強化を図りたい。</li> <li>遅刻過多の生徒に対し、年度当初に掲げた遅刻指導ができていないため、生徒指導部と担任の連携をさらに深めていきたい。</li> <li>生徒指導部内の業務分担の偏りをなくし、複数で同一業務が遂行できるような体制づくりを行う。</li> </ul>		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年1月17日

<b>【意見・要望・評価等】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒のSOSを敏感にとらえ、いじめ等を未然に防ぐため、生徒とのコミュニケーションがより一層とれるとよい。</li> <li>学校行事もコロナ前に近づいていることがうれしいです。地域（墨俣）との交流・活動も活発にお願いしたい。</li> <li>部活動の中には、特色ある部活もあり、伝統も実績もある。PR活動を重視して、一人でも多くの部員を集め、より一層の活躍に期待します。</li> </ul>
---

### ◇進路指導部

4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>「進路情報の提供」「将来の希望に沿った具体的な進路指導」の項目で9割弱の生徒から高い評価を得た。進路行事の準備や説明を丁寧に行ったことが生徒の進路意識を高めたと思われる。保護者からの評価も「情報提供の場の設定」「希望に沿ったアドバイス」の項目で8割から高い評価を受け、低い評価の割合が昨年度から減少した。ただ「わからない」とした割合は1～1.5割程度あり、昨年度とほぼ変わらない。</li> <li>学年会と連携し、生徒への丁寧な個別対応を心掛けるとともに、家</li> </ul>
--------------------------------	--

	庭で進路について話題にしてもらうよう働きかけていく必要がある。	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	1 社会において信頼と尊敬を得る人材の育成をするため、基本的な生活習慣、豊かな教養やマナーの定着、基礎学力の向上のための指導を充実する。 2 進路指導に対する全職員の共通理解を高め、3年間を見通した計画的・組織的な進路指導体制を確立する。 3 生徒一人一人と保護者に適切な進路情報を提供できるよう、ガイダンス機能を充実する。	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・進路指導部と各教科（基礎学力定着に向けての取組指導） ・進路指導部と学年会（キャリア・ガイダンスなどの指導） ・進路指導部と専門科（地域人材を活用したキャリア教育）	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 進路希望調査により個々の生徒状況を把握し、指導に生かす。 (2) 基礎力診断テストにより学力状況を把握し、基礎学力向上に取り組む。 (3) 各種ガイダンスの実施 (4) 進路別指導の実施	(1) 未定者の減少、希望の明確化 (2) 基礎力診断テスト3教科の平均点と推移 (3) アンケート結果 (4) 就職内定状況・進学合格状況	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
・進路希望調査や進路先研究によって生徒希望の把握に努め、その結果を教育相談や懇談で活用した。 ・基礎力診断テストの結果返却時に、その意味や活用方法を指導し、振り返りや復習に取り組ませた。 ・学年別ガイダンスを実施し、進路意識の向上に努めた。	①生徒の状況を把握し、個に応じた適切な指導ができていないか。 ②進路行事の目的や意義を理解し、目標や見通しをもって取り組むことができていないか。	A (B) C D A (B) C D
12 成果・課題	○3年生の進路実現に向けて、学年会と連携を取り、全職員の協力を得ながら面接指導、進路指導を行い、進学・就職ともに良好な成果を得た。 ○ガイダンスなどの進路行事に、生徒は積極的な態度で参加し、自信の進路について考えることができた。 ▼生徒・職員への進路情報伝達の方法について、効果的な時期や方法を提案し、体系立てて実施する必要がある。	
13 来年度に向けての改善方策案	・各進路行事の目的を明確に提示し、職員の共通理解のもとで効果的に実施する。 ・進路実現に向けて、生徒に目標の早期明確化と自らの取組姿勢の振り返り、改善を促す。 ・「基礎力診断テスト」「キャリア・エッセイ」のフィードバック方法を工夫し、有効活用に繋げる。	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年1月17日

<b>【意見・要望・評価等】</b> ・進学率が高くなっていることから、早期に目標を定め、それに向かっでの学習意欲を高めることができたらい。 ・進学、就職ともに良好であったことは、指導される先生方の努力の賜物です。進学希望者が増加傾向にあるようで、その対策に一層の充実が必要である。 ・各種コンクールや資格試験・検定などへのより一層のチャレンジと結果に期待しています。
---

### ◇家庭・福祉部

4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・学習指導に関して生徒のアンケートから1，2年生での学びが基礎となり、3年生での「課題研究」「介護総合演習」で更に力を付け、進路実現に繋がっていると感じている。また、生徒は多方面から評価をされていると感じている。 ・ICTを活用した学習や協働的な学びに関して保護者、生徒の評価が下がっている。タブレットの活用の工夫が必要である。
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	1 基礎的な学力・専門的知識や技術の習得・向上を図り、自立的な学習習慣を定着。自ら学ぼうとする主体性や社会と関りながら将来を切り開いていく力（自立力）を養うための指導研究をする。

	2 積極的な研究活動や奉仕活動の実践をとおり、自らの役割と責任を果たしていく力(共生力)を育てる。 3 可能性に挑戦し、専門的知識・技術を生かした進路選択を自ら行うことができる力や地域社会に貢献できる力(自己実現力)を育てる。	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	自立力の育成：各科、各学年会、各教科 共生力の育成：各科、各分掌、学校家庭クラブ 自己実現力の育成：各科、各学年、進路指導部	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 生徒の実態を踏まえた教科研究と授業研究 (2) 各種資格取得率アップ (3) 学校家庭クラブ研究活動の充実 (4) 地域との連携を図り、様々な実習や研修に向けての事前事後指導の充実	(1) 学校評価、授業評価(生徒アンケート) (2) 家庭科技術検定 ビジネス文書実務検定 介護福祉国家試験等の合格率の向上 (3) 全校生徒への普及、生徒の取組状態 (4) 進路実現	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
・専門教科の授業における授業改善(ICTを活用した授業の実施) ・各学科の行事内容及び成果の積極的な広報 ・家庭クラブの研究活動継続 ・家庭科技術検定、ビジネス文書実務検定、介護福祉国家試験等専門性を高める試験への取組 ・身だしなみや挨拶指導 ・インターンシップの実施、各科行事の内容の見直し、事前指導の徹底、事後指導の実施	① 学校評価、授業評価、進路実現 ② HP更新と新聞社等でのPR活動 ③ 学校家庭クラブ役員、家庭・福祉教員のアンケート ④ 専門性を高める試験への取組と合格率 ⑤ インターンシップや連携機関・企業の評価、生徒評価	A (B) C D A (B) C D A (B) C D A (B) C D (A) B C D
12 成果 課題	○地域との連携活動も活発に行うことができた。1, 2年生の基礎が3年生の応用に繋がることを地域連携や資格挑戦から実感できた。その結果が学校評価の生徒の結果に表れ、進路実現にも繋がっている。専門学科の特色ある授業・研修などを通して、多くの生徒の著しい成長を見ることができた。 ▲保護者や地域へ生徒の活躍、成長の様子を発信し、本校、本科の理解を深め、学習への協力や連携の充実を図る。	総合評価 A (B) C D
13 来年度に向けての改善方策案	・保護者・地域、各学年・分掌との連携を図る。 ・各学科における専門科目の指導計画や目指す生徒像の見直しと教員間の共通理解を図り、実習課題の検討、ICT活用、教材・指導方法の研究を行う。 ・自分の専門性を高めるための資格やコンクールへの挑戦の仕方、進路選択が多様化している。今後も様々な授業や体験学習を通して、生徒が自ら取り組むことができる姿勢やリーダーを育てる等、指導体制の構築を図る。	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年1月17日

【意見・要望・評価等】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月の文化祭からさらに専門性が高く、また各科の特色を生かした発表となっており、まさに集大成という想いが伝わってきました</li> <li>・保護者の参観もあり、桜高校での学びを直に見ていただくことができた点もよかったです</li> <li>・最初から最後まで「生徒が主体的に取り組む」ことができた発表の成功には、先生方のご指導があったからこそと思います。開催場所について、相当なご苦勞があったと思いますが、ここから新たな伝統が生まれていくことを期待します。</li> </ul>